

# かみっこ

令和5年10月27日

## 「ふるさと学習」で育むこと

校長 平澤 啓介

神岡小学校では、総合的な学習の時間や生活科を中心に「ふるさと学習」に取り組んでいます。学年ごとに伝統・文化、環境・防災、福祉、まちづくりなどの題材を決め、地域の人々や物事を教材として学習を進めています。

3年生では、神岡の伝統・文化という題材について、体験を多く取り入れた学習を行っています。夏休み前には、「船津盆踊り」と「太子踊り」の保存会の方から、歴史や踊り方を教わり、3年生全員が踊れるようになりました。児童のなかには、踊りに興味をもち、保存会に参加するようになった子もいました。9月には、町歩きガイドの皆さんの案内で、ガイドを聞きながら水屋めぐりをしました。初めて水屋を訪れ、水を飲んだ児童もいて、神岡で昔から大切にされてきた「水屋」の魅力を感じました。

6年生では、「みつめよう神岡」と題して、ふるさと神岡のよさや課題を見つめ、自分には何ができるかを考えています。9月には飛騨市長を招き、「藤波八丁をもっと魅力的な場所にしたい！」「神岡のトマトのおいしさをもっと多くの人に知ってほしい！」などの提案を聞いていただきました。市長からは、実現に向けての助言をいただき、後期の学習につなげています。この学習を通して、小学生でも、自分たちのまちづくりに参加できることを感じてほしいと考えています。

学年の終わりには、学習の成果を新聞や映像にまとめ、他の学年やご家庭、地域に向けて発信する予定です。

こうした「ふるさと学習」には、大きく2つのねらいがあります。1つは、「ふるさとへの誇りと愛着」を育むことです。子どもたちは、神岡町の人々や物事に触れる活動を通して、神岡町について理解を深め、地域づくりに貢献する人たちの生き方を学びます。そして、ふるさとへの誇りと愛着を育んでいきます。

もう1つは、「自分で問題を解決する力」を育むことです。子どもたちは、学習のなかで、身近なことに興味や関心をもち、疑問や問題意識から課題を設定します。次に、その課題を解決するために必要な情報を集め、収集した情報を分析してまとめます。最後に、方法を工夫して、まとめた考えを発信します。こうした学びのステップを経験し、自分で問題を解決する力という汎用性の高い力を身に付けていきます。

ご家庭でも神岡のまち、伝統・文化、環境・防災などに触れてみてはいかがでしょうか。子どもたちの貴重な学びにもつながると思います。

